

学校だより

大津市立葛川小・中学校

平成29年3月号

葛川の子どもたちの育ち

先日2月28日（金）の夜、葛川支所にて教育委員会主催の「葛川のよさ」「葛川の子どもたちの育ち」というテーマで懇談会がもたれ、30名を超える保護者・地域の方々・教職員の参加がありました。議事録の一部を紹介します。



まず、葛川のよさですが、場所、物、人に分けてみると、

＜場所＞では、四季の変化が感じられる。自然の恩恵と自然の厳しさが感じられる。感性が自ずと磨かれる。

＜物＞では、古い時代の習慣が残っている。独特の食文化、地域でよく育つ植物（唐辛子など、調理も独特）。地域の行事が多い（歴史のあるもの）

＜人＞では、人と人の距離が近い。子どもの縦のつながりが強く、小中学校で学べる。子どもがのびのびとして自然体。子どもの顔を地域の人知っている。



次に葛川の子どもたちの育ちについては、
＜今どんな育ちをしているか＞

自然を生かした遊びをしている。人数の多い学校ではできない経験ができる。分かるまで教えてもらえる。一人あたりの役割が多いため、責任感が身につく。少人数過ぎて競争心が無いのでは…。

＜どんな子どもに育てたいか＞

自然、地域を大事にし愛する子ども。山登りの楽しさ、自然の楽しさを感じられる子ども。上から下まで共に行動できる子どものつながり。手を使って作る自然とかかわる体験。好きな活動を見つけ、打ち込める子ども。



上記の懇談会がもたれる背景には、「将来の葛川小中学校をどうしていくか」という、学校規模適正化問題があります。夏以降の学校存続に向けての署名活動や保護者の数回に渡る熱心な協議、そして地域説明会での前向きな学校存続の意見聴取を受けて、教育委員会では、葛川小中学校での特認校制度（大津市内の他

の学区の児童生徒も葛川に通学できる制度）の導入が可能かどうかの検討がされています。

特認校制度が認められると、これから学校では「今の学校のよさ」を生かしつつ、より特色のある教育実践を行っていくことになります。そのためには、既成の発想から脱却をはかる勇気と行動力が必要になってきます。この大きなハードルを乗り越えていくためには、教職員はもとより保護者や地域の皆様の絶大なご支援とご協力が不可欠となって参ります。どうか、素晴らしい葛川小中学校の門出に向けて、皆様方のご協力を切にお願いいたします。

すすすく算数で頭に汗

小学校では3年生以上を対象に、年間で約20時間ほど算数の基礎基本を、個人の習得状況に応じて高める取組をしてきました。今年度は、一歩進んで、基礎基本の習得に加え、思考力を高める応用問題にも挑戦しています。写真は小3～小6が一つのグループになって真剣に問題に取り組んでいるところです。湯気こそ上がっていませんが、頭はフル回転。



巣立ってゆく

卒業生の皆さんへ

いよいよ、みなさんとお別れする日が近づいてきました。小6の人は六年間の、中3の人は三年間の締めくくりの日が卒業式です。この日が近づくとつれ、普段は忘れかけていたいろいろな出来事やその時々の気持ちがよみがえってくるのは、なんとも不思議なことですね。卒業式の主役はみなさん一人ひとりです。呼名（担任の先生から呼ばれたとき）の「返事」、みなさんが語りかける「呼びかけや答辞」の言葉、みなさんが気持ちを込めて歌う「式歌」、それらすべてが式に参加している人には宝物のように記憶に残ります。この日のために、たくさんの方が準備を進めてくれています。葛川小・中学校の最大イベントだからです。だから、堂々と晴れやかに自分を見せることが、みなさんがやるべきことであり、みんなの期待に応えることになるのではないのでしょうか。

卒業していくみなさんに、私の好きな言葉を贈り、締めくくりとします。

（リーダーになり、人を育てるときに役立つかと思います。）



『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ』 -山本五十六-